

法面工低減係数の UP(長寿命補強土モルタル吹付型)のお知らせ

本工法の法面工低減係数は、NEXCO 要領の計算式により、下表の「現状（令和4年度まで）」の値を示してきました。令和5年度以降の設計から、法面工低減係数の値を下記の様に UP した値での設計を推奨します。

補強材挿入長 (m)	法面工低減係数 補強材間隔 1.5m の場合	
	現状 (令和4年度まで)	今後 (令和5年度以降の設計)
2.0	0.89	0.89
2.5	0.80	0.80
3.0	0.73	0.73
3.5	0.67	0.70
4.0	0.62	0.70
4.5	0.57	0.70
5.0	0.53	0.70

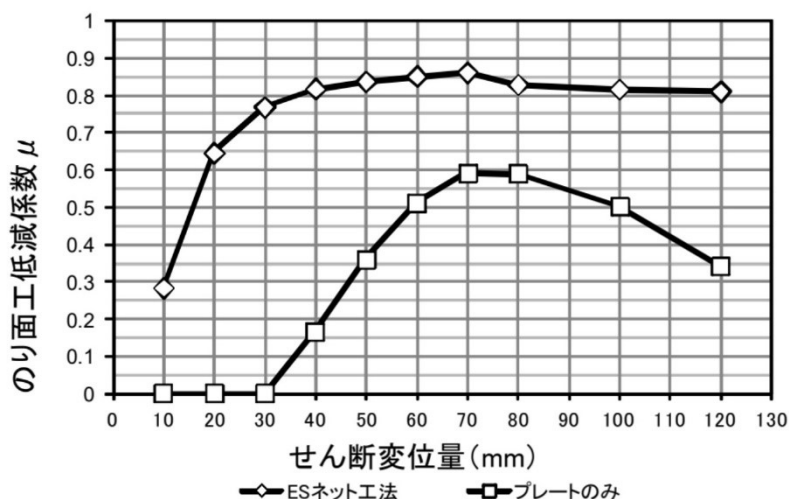


図-1※ せん断変位量と法面工低減係数

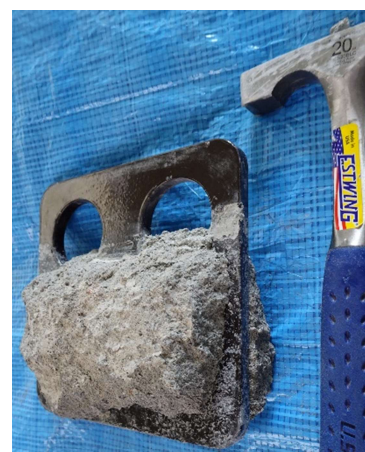


図-2 モルタルとプレートの一体化

この変更は、金網などを使用した補強土工法が、研究成果に応じ、 $\mu = 0.7$ 以上が使用されるようになったためです（図-1）。本工法では、図-2に示した頭部の（長寿プレート）の穴と補強材と金網が一体化し、さらにモルタルがのり面工として施工されます。そのため、金網と補強材の組み合わせより法面工低減係数は向上しますが、その値は今後の実験を踏まえ総合的に判断する必要があります。

※：九田他 2014年 土木学会第69回年次学術講演会 ES ネット工法ののり面補強効果に関する模型実験